

1 総合計画推進に向けた人づくり・地域づくりの取り組みについて

- (1) 地域づくりを進める上で、自治会や民生委員また防犯などの活動を支える人材発掘や育成は重要である。地域における人づくりの取り組みについて、考え方・現状の課題認識・取り組みの進め方を伺う。
- (2) 生き方や考え方が多様化する中で、地域づくりを進めるためには、自治会や地区社協などの地域組織と、スポーツ・文化や健康づくり、社会貢献などの活動を行う市民団体とのつながりが重要と考える。そのためには、性格の違う両組織をつなぐコーディネーター役が重要と考えるが、市の認識を伺う。またコーディネーターを担う人材育成の考えおよび取り組みを伺う。
- (3) 高齢者の生きがいを高めるための人づくりについて伺う。地域づくりへの参加は、組織としては人材活用、個々人にとっては生きがいとなり、高齢化時代の重要な取り組みのひとつと考える。H28年度には、社会参加ノウハウ講座や社会参加促進フェアを行った。社会参加を推進する取り組みの現状と課題を伺う。また、活動の推進にあたり、実際に経験を積んだ核となる人材が必要と考える。こうした人材確保や育成などを含めた高齢者の社会参加促進について、今後の取り組み構想を伺う。
- (4) 若者の定住促進と活力を高めるための取り組みについて伺う。人口減少を少しでも抑え、地域の活力を維持していくためには、若者の定住促進は欠かせないことから、定住意欲をかき立てる魅力の発信が必要と考える。そのためには、今ある磐田の魅力発信と若者の手による新たな魅力の開発を進めていくことが望まれる。

昨年11月に開催された「いわた産業振興フェア」では、工学系の静岡理工科大学、豊橋技術大学、沼津高専などの展示ブースが設置され、来場者からも注目をされていた。近隣の工学系大学との交流・連携は、若者の定住促進の一助にもなると考える。近隣の工学系大学などと市内企業との連携、産官学の連携などの現状と今後の取り組み拡大の考えを伺う。

ワークライフバランスの取り組みは、仕事の生産性を高め企業の付加価値を拡大すると同時に、働く人々の余暇時間を確保するもので、地域のスポーツや文化活動などの活性化につながると思われる。そのため、官民が協力したワークライフバランスの取り組みは、磐田市の魅力開発にもつながると考える。庁内および市民・事業者への啓発などについて考えを伺う。

通学圏・通勤圏・商圈などを考えると、若者の定住を促進するためには、中遠もしくは遠州全域で将来構想を共有し連携して取り組むことが効果的と思われる。広域連携の現状と課題、今後の取り組みを伺う。

2 行財政改革について

(1) 民営化や民間の活用について伺う。

市民課窓口・市税課など窓口業務の民間委託の効果と課題および、今後の窓口や定型業務などの民間委託や活用拡大の構想を伺う。

病院や水道の事業は企業会計で事業を行っており、下水道事業は企業会計への移行を進めている。これらの事業について、民営化や民間活力の活用などの視点から将来構想を伺う。

(2) 民生関係費用の増加が続いている。国の制度に基づく支出も多いとは認識するが、市としてバランスの良い財政運営を進めるためには、民生分野についても歳出の抑制が必要と考える。民生分野における歳出増加について、主な要因と課題を伺う。

(3) 増え続ける医療費を抑制するためには、健康づくりの取り組みと医療費の関係を掴み、効果の高い啓発を進めることが必要と考える。これまで実施した健康づくりの医療費抑制への効果と課題、また、医療費抑制に向けた今後の取り組みを伺う。

- (4) 業務の効率化や不要不急業務の洗い出しなど、市の改善活動の現状と課題を伺う。また、改善提案や小集団活動などについて、今後の取り組みの考えを伺う。
- (5) 平成29年度以降の行財政改革の取り組み方針を伺う。